

A large, empty rounded rectangular box with a thin black border. A single horizontal line is drawn near the bottom edge of the box, extending across most of its width.

A rounded rectangular box with a thin black border, divided into two horizontal sections by a line. The bottom section contains the text "198-0014" on the left and "1-681" on the right.

198-0014 1-681

1.	.....	2
2	.....	3
3	.....	4
4	.....	5

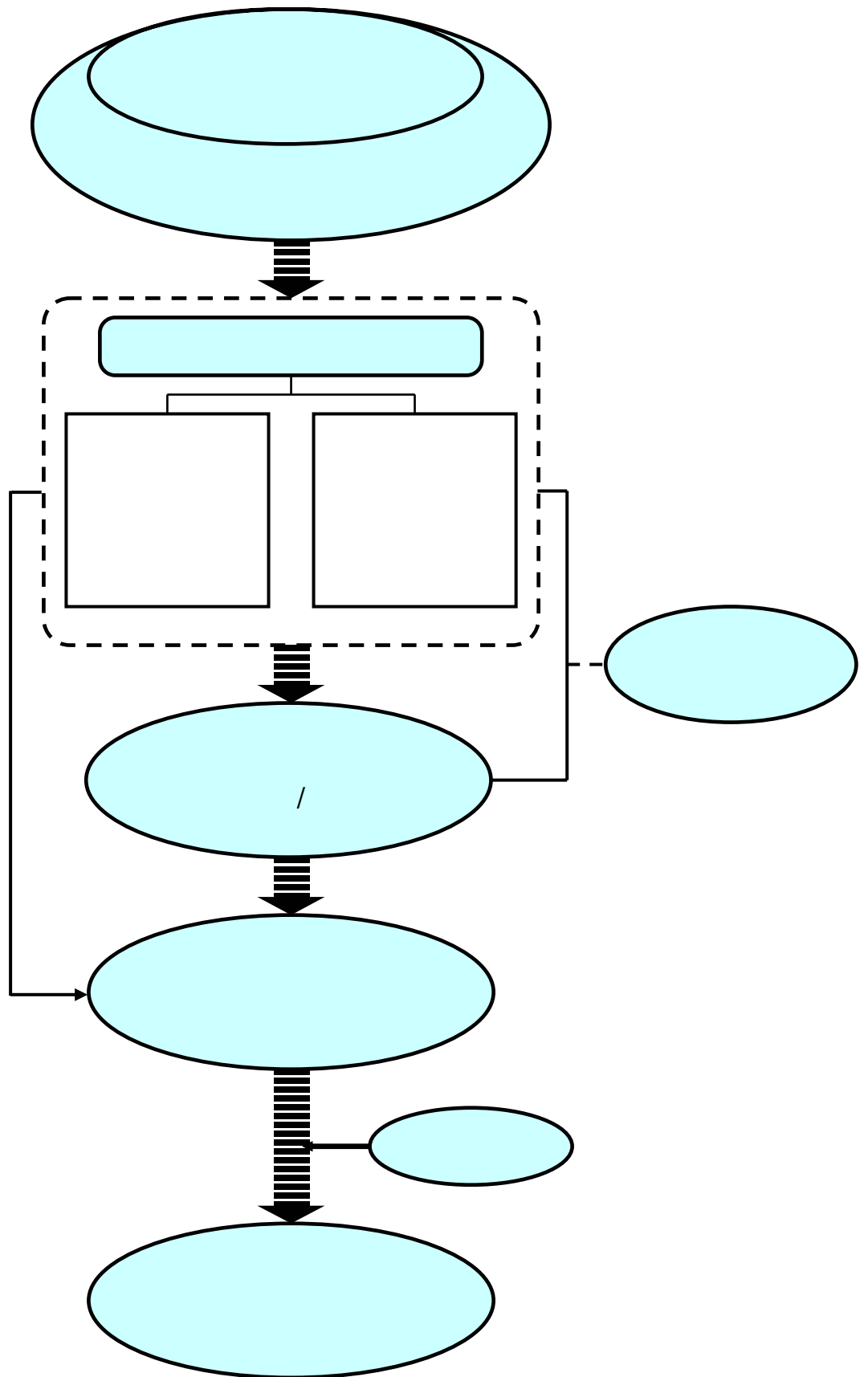
1.	.....	7
2	.....	8

1.	.....	10
	.....	11
2	.....	33
	.....	34
		47

1.	/	.....	49	
2		KJ	.....	50

1.	.....	52		
2		/	.....	53
3		/	.....	54

- 
- 1.
  - 2
  - 3
  - 4



●自立排泄ができなくなると、  
高齢者は「寝たきり」が近づく

高齢者の在宅医療において、いま訪問看護師と家族との連携の重要性が、注視されている。そんななか、訪問看護師からは、その看護サービスの大半が「排泄介助」であり、また近年そのニーズが高まっている訪問リハビリについても、まず「自分でトイレに行ける」という自立排泄への意欲の喚起が、離床への最大の契機になっているという声を数多く聞いている。

●高齢者の自立排泄維持は、たとえば  
退院後の排泄訓練のいかんによって決まる

実際、急性期（ないし回復期）病院から退院し、帰宅してきた高齢者にとって、「トイレに行けること」すなわち「自立排泄」をめざす個々人に合ったりハビリプログラムをいかに早期に組み立てるかが、最重要課題といえるだろう。



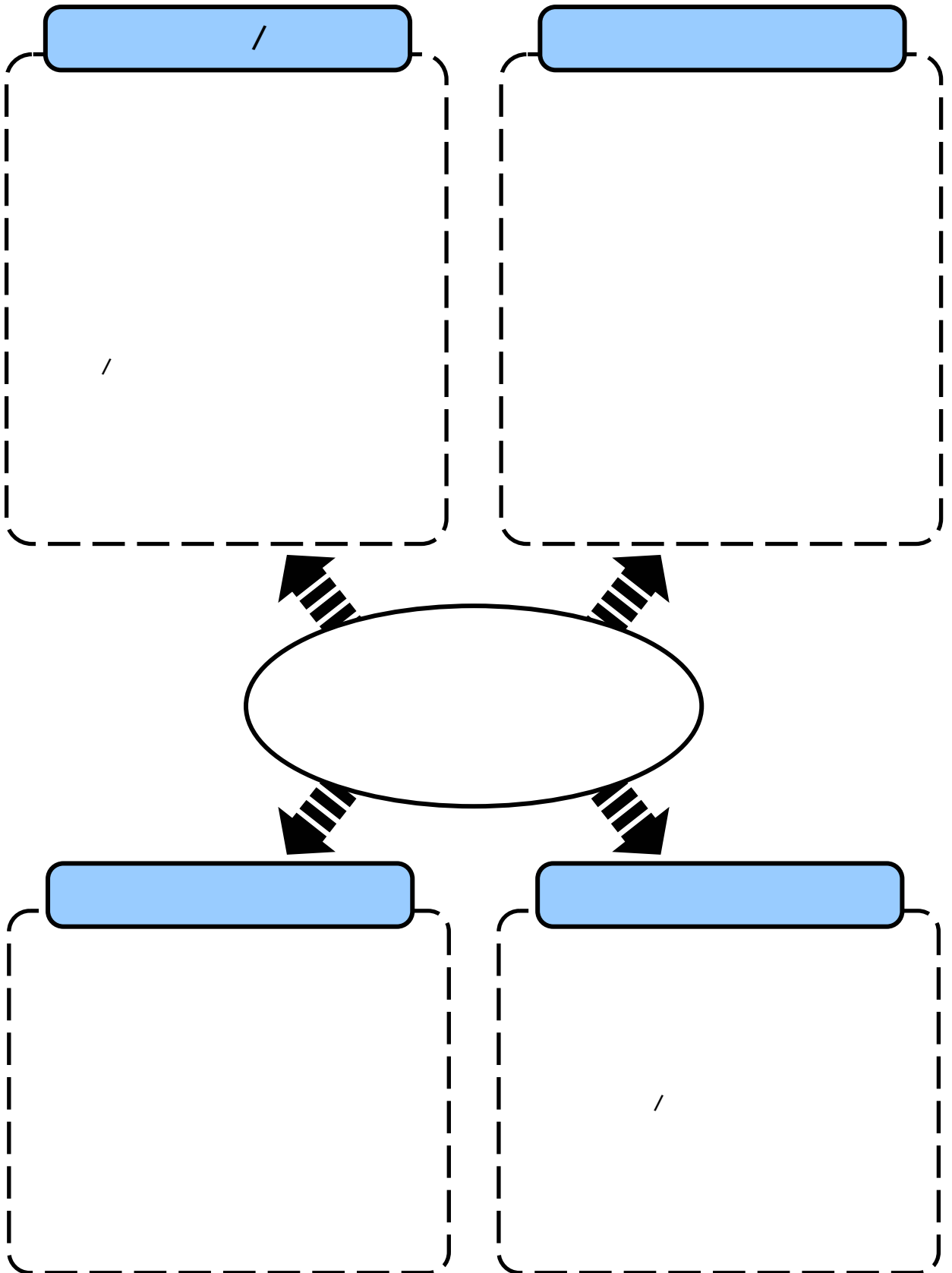
●疾病によって異なる排泄動作を見直すことから、  
自立をめざす訪問リハビリと排泄環境を考えたい

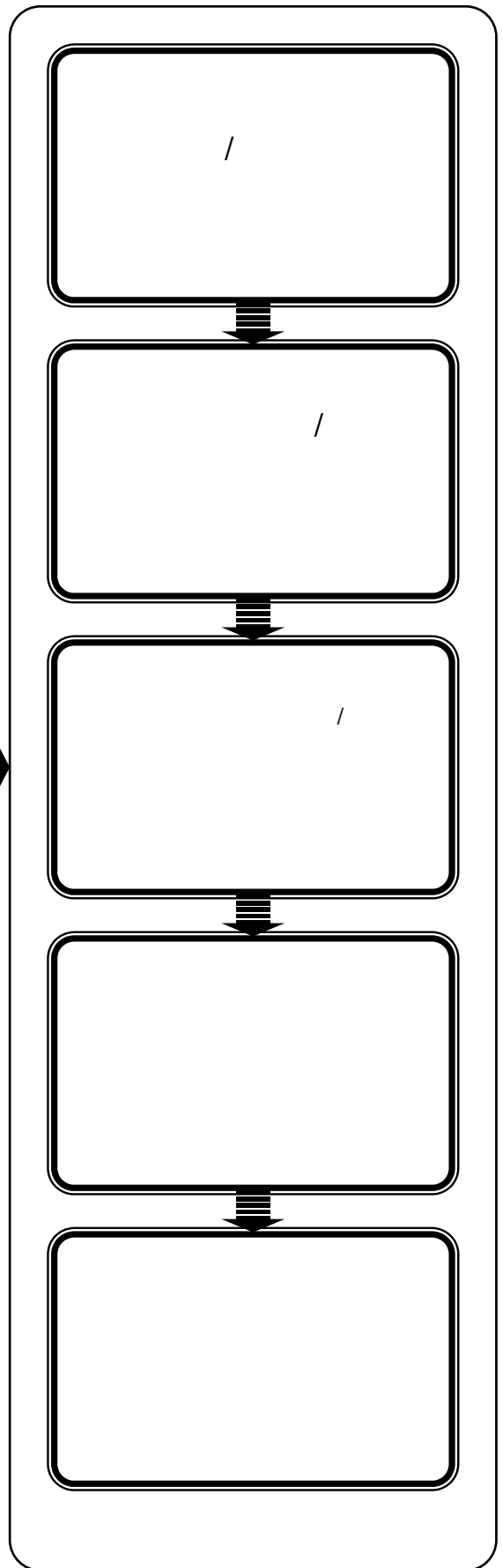
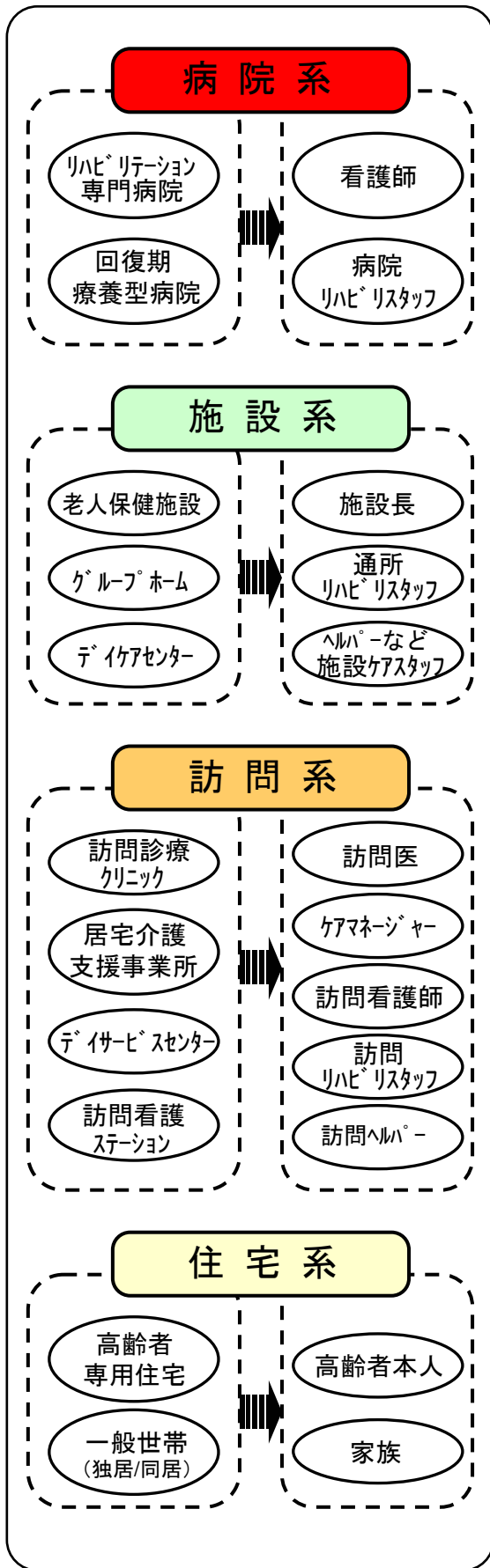
しかし現実には、疾病によって、被看護者における排泄に対する認識も、その排泄動作も大きく異なるが、そうした「排泄動作アセスメント」の究明は、目下ほとんどなされていない。

（例えば、片麻痺高齢者と認知症高齢者では、全くその排泄姿勢や動作は違う）

●訪問看護と家族の負担を軽減し、自信が持てる  
「リハビリ型排泄環境」のあり方を提言する

そこで、けっして甘やかすだけではない、あくまで訪問看護と家族の負担軽減をもたらすための在宅高齢者の「リハビリ型排泄環境」の整備をリハビリプログラムの策定とトイレ環境づくりの両面から調査/研究し、新たな提言を行ないたい。







- 1.
- 2





1.

2

---

1. /  
2

- 
- 1.
  - 2
  - 3